

FD 推進委員長より

01

「前期活動を振り返って」

令和3年度前期のFD推進委員会は、コロナ禍ということもあり、遠隔授業の対応に向けた活動が中心になり、前期の「授業公開」や「授業改善奨励制度」については、主に遠隔授業科目を対象として行われました。前者においては多くの科目が公開され、コロナ禍にかかわらず、なかなかの活況を示した感があります。後者については、5名の先生方が顕彰されることになり、優れた遠隔授業（対面×遠隔の授業を含む）のベンチマークを提供して頂きました。

また、今年度の「教育改革講演会」は、「大学の授業運営における著作権の考え方について」と題し、外部の専門機関から講師をお招きして実施しました。夏休み期間中にもかかわらず、多くの教職員のご参加、ご視聴をいただき、授業コンテンツと著作権との関わりについて全学的な理解に繋がったのではないかと思います。

さて、FD推進委員会においては、今年度は3つの企画グループを設けて、それぞれテーマを決めてワーキングを行っております。「情報交換会の企画（カフェFD等）」グループは、授業改善の具体的な取組みについて教職員間でココ展開を図ります。「学生を含めた企画（学生FD等）」グループは、学生が自身の学びの環境づくりに参画できる方途を探ります。「遠隔授業コンテンツ企画（掲示板等）」グループは、After コロナにおいても有効となる遠隔授業の方法やコンテンツについて検討します。現在、各グループで企画の検討が進行中ですが、今年度中に何らかの形で成果を出したいと思っております。



FD 推進委員長
久富 健治

◆ **今年度の活動計画** 今年度は、次のグループに分かれて各事項について検討・企画を行っております。



●令和3年度FD活動の報告●

Contents

- | | |
|---|---|
| <p>01 FD推進委員長より
・「前期活動を振り返って」
・今年度の活動計画</p> <p>02 前期授業公開の実施報告
・実施概要及び公開科目一覧
・実施後アンケートより</p> <p>03 前期授業改善奨励制度について
・表彰科目及び表彰教員紹介</p> | <p>04 令和3年度教育改革講演会の実施報告
・実施内容</p> <p>05 その他
・今後のFD企画一覧
FD推進委員一覧</p> |
|---|---|

実施概要

FD 推進委員会では、他の教員の授業を参考に、自身の授業運営や授業方法の改善・向上を図ること、また、他学科における教育活動の理解を促進し、学科間での連携、総合大学としての一体感を高めることを目的に授業公開制度を設けています。今年度は公開を許可された遠隔授業科目（Classroom）において授業公開を行いました。

公開科目一覧

No.	科目名	曜日・時限	担当者	所属	遠隔授業形態
1	フランスの音楽と芸術文化	月曜・3限	永島 茜	応用音楽学科	オンデマンド型（収録型）
2	論理と数理入門	水曜・3限	藤井 善仁	経営学科	オンデマンド型（収録型）
3	ネットビジネス入門	水曜・3限	黄ティテイ	経営学科	オンデマンド型（収録型）
4	会議通訳 A	金曜・3限	辻 和成	英語文化学科	ライブ型（同時双方向型）
5	データサイエンスの基礎と Excel(1)	月曜・1限	長谷川裕紀	共通教育部	オンデマンド型（収録型）
6	家族看護学	木曜・4限	藤田 優一	看護学科	その他（8回授業のうち後半2回は対面授業）※1単位
7	世界建築史	金曜・2限	田崎 祐生 猪股 圭佑	景観建築学科 建築学科	ライブ型（同時双方向型）
8	会計入門	金曜・1限	鈴木 基史	経営学科	オンデマンド型（収録型）
9	基礎栄養学	木曜・3限	前田 晃宏	食物栄養学科	ライブ型（同時双方向型）
10	簿記	火曜・1限、 土曜・2限	久富 健治	健康・スポーツ科学科	オンデマンド型（収録型）
11	基礎造形実習	土曜・1・2限	黒田 智子	生活環境学科	ライブ型（同時双方向型）
12	文化事業論	火曜・1限	平井 拓己	情報メディア学科	オンデマンド型（収録型）

実施後アンケートより

今回初めて実施した遠隔授業の公開は、昨年来多くの教員が試行錯誤を続けるなかで、時宜を得た取り組みでした。授業公開に参加した私自身にとっても、授業公開して見学いただいた方々から得られたフィードバックや、公開された授業を見学して発見できた知見は大変有益なものでありました。ともすれば、学生が授業を受講する実感に欠けるなどと言われるように、遠隔授業は対面授業の緊急的な代替措置と捉えられがちです。しかし、コロナ禍を奇貨としてオンラインを活用することにより、学修効果の向上に大きく貢献できる可能性も示されていると考えます。

授業公開制度の公開時期、方法、フィードバックのあり方などに改善する余地はあるものの、今回の Classroom を活用した試みは授業公開への参加の垣根を低くしつつ、有益な情報を交換・共有する取り組みであることは疑う余地がないと考えています。

見学いただいた方のアンケート回答では、「遠隔授業を見学すると学生の受講環境に配慮した形で、学生からの視点を活かす必要性を感じた」、「Classroom 内の資料や連絡を見ることができ授業運営の参考になった」、「Classroom に参加させていただくという方法は、時間的にも負担なく閲覧させていただくことができた」、「Classroom 内の資料や連絡を拝見させていただくこと自体が参考になった」、「授業参観を一度は行うべきだと思うので、ある程度は参加指名制にしてもよい気がする」などの意見がありました。いただいた意見は、今後の授業公開制度の検討、改善等に活用させていただきます。

後期授業公開について

後期の授業公開は令和3年11月30日（火）～12月13日（月）に実施しました。詳細は、FD 推進委員会のホームページで案内しております。

FD 推進副委員長 平井 拓己 / FD 推進委員 牛居 典子

大学として更なる教育の質向上を図るため「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励を実施しました。今年度は「with コロナ、after コロナを見据えた新たな授業方法の工夫」をテーマとして募集を行い、5名の先生が学長より表彰を受けました。

表彰科目の紹介

1. 近代文学講読Ⅰ（大日2ABC） 日本語日本文学科：山本 欣司

科目の概要

近現代文学の代表的な作品の講読を通じて学習者が自ら読解力を高めると共に、中高教科国語、高校教科書道を教授するための基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解する。

実践内容

ひとつの作品（樋口一葉「たけくらべ」）をじっくり読む授業。ラジオのように音声のみ配信。教員の解説に沿って、テキストを読み進めながら、学生自身が毎回さまざまな場面の解釈や疑問点や意見をわかりやすい論理で言語化することを授業の柱とする。初読の感想が当てにならないことや、自分が一面的な解釈に凝り固まっていたことを痛感するために解釈の言語化は有効。毎週の振り返りの際、他の受講生の意見をクラスでシェアすることで、自分とは全く異なる解釈が可能であることに気づく。またクラスメートの上質な説明を目にし、自分の説明の至らなさや表現力の大切さに気づく。

受講生への効果

- ・学生それぞれが、自分の解釈を何度も言語化することを通して、根拠に基づき作品をより客観的、論理的に読み深めるようになる。
- ・他の受講生の意見にふれることで、多様な解釈が可能であることに気づき、さまざまな角度から読む態度を身につける。
- ・表現力が高まる。
- ・小説がもっと好きになり、丁寧に読むようになる。

優れた点（授業アンケートの学生コメント・授業参観者からのコメントより）

- ・自分のタイミングで何度も聞き返すことができるところがとても良い。先生の話すペースも丁度良くてメモなど書き込みしながらでもしっかり授業についていった。
- ・課題を提出したら Classroom に質問への回答がアップされる。他の方の質問とそれに対する先生の回答も見ることができて興味深かった。
- ・説明を聞いて精読して初めてわかる文学の面白さに気づけたような気がする。
- ・Classroom を上手にわかりやすく活用した学習効果の高い授業である。
- ・学生のデバイスに左右されない受講と通信料の抑制が実現されている。



2. ネットビジネス入門（経営1AB） 経営学科：黄 テイテイ

科目の概要

ネットワーク技術の進展に伴う企業情報システムの変化と、インターネットビジネスのビジネスモデルや電子商取引について学び、ネットビジネス全般に関する基礎知識を修得する。

実践内容

- 予習と復習が徹底し、クラスメートから学ぶ環境
 - ・事前小テスト（予習：自動評価と正解説明）
 - ・授業後小レポート（知識の応用）
 - ・期末テスト（復習：自動評価と正解説明とボーナス質問）
 - * manaba システムにより学生がクラスメートのレポートを自由に閲覧できる。
- 用意周到な教材
 - ・Prezi で作った講義動画用レジュメ
 - ・PowerPoint で作った詳細な講義資料
 - ・セクションごとに分割した動画も用意
- 成長に繋ぐフィードバックの仕組み
 - ・優秀レポートの開示
 - ・全体に対して宿題の評価

受講生への効果

- ・講義資料や小テストに講義の一週間前からアクセス出来るため、計画的に予習し、視聴を繰り返すことで理解が深まる。
- ・Prezi 教材は視覚的に見やすく疲れにくい。動画を短時間に分割することで更に受講しやすい。
- ・自分のレポートへの講評と、クラスの優秀レポートの内容を知ること、回を重ねるごとに個々の学生のレポートのレベルが上がり、優秀レポートに選ばれるための努力もみられた。

優れた点（授業アンケートの学生コメント・授業参観者からのコメントより）

- ・毎回出る課題の話題が面白く興味深い、レポートの評価が丁寧。
- ・他の人のレポートを参考にして、オリジナルのレポートを作る練習になる。
- ・教材が分割されていることで集中力が持続する、時々動画等が入っていてわかりやすい。
- ・事前配布資料が充実しており、講義画面も見やすく工夫されている。
- ・時折先生が動画に顔を出して、学生へのメッセージや雑談、熱い思い、体験談などを話されることで「緊張と緩和」の効果が生じる。



3. 論理と数理入門（経営1CD） 経営学科：藤井 善仁

科目の概要

「判断推理」能力と「数的推理」能力の基礎力を修得すると共に、その基礎訓練を通じて大学生として必要な「リテラシー能力（情報や知識を活用する力）」を鍛錬する。

実践内容と受講生への効果

数学嫌いな学生の関心や集中力をアップさせて、学修効果を高める様々な工夫。

○使用機材

- ・カメラ2台（4K 対応の書画カメラと VLOG 撮影向けデジタルカメラ）
- ・ATEM Mini（カメラを切り替えるためのスイッチャー）
- ・オーディオインターフェイス（音源をクリアに録音するためのインターフェイス）
- ・Adobe Premiere Pro（動画編集ソフト）

○公開形式

- ・YouTube 動画をクラスルーム上で公開（無期限：オンデマンド型）



主な工夫	受講生への効果
時事ニュース解説や教員本人を紹介したオープニング動画の公開。	学生と教員の距離が縮まり、学生からのオフラインでの相談、授業外の就活の相談、学生生活の相談を受ける機会が圧倒的に増えた。
デジタル機器を駆使した高画質板書映像の提供。	4K 画質板書に書画カメラの板書映像と教員の顔出し映像を組み込むことで授業内容が頭に入りやすいとの学生からの評価を得た。
2種類の講義ノートの提供。 (教員によるメモ書き 有・無)	メモ付きの講義ノートをアップすることで、自分で板書する手間が省け授業の説明に集中でき、理解度が増したという多くの学生からの感想を得た。
10～15分程度に細分化した授業動画の提供。	動画が細かく分かれていることで、効率的かつ意欲的に授業に取り組みやすいという学生からの評価を得た。

優れた点（授業アンケートの学生コメント・授業参観者からのコメントより）

- ・講義が説明と問題の部分に分かれていて良かった。
- ・レジュメが2種類あり、大変使いやすい。
- ・問題だけでなく、概念の説明があり理屈でも理解できる点が良い。
- ・課題のヒントの動画ファイルを毎回挙げていたところが良い。
- ・授業タブのトピックス立てが、分類別で分かりやすい。

4. データサイエンスの基礎と Excel（大短共通） 共通教育部：長谷川 裕紀

科目の概要

人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても重要となる統計学の基本的な考え方や統計解析の手法を学ぶ。前半はテーマに関する動画視聴と Excel の演習問題。後半は、実際のアンケートデータの分析や課題解決策の提案により、第三者にわかりやすく説明する表現方法を習得する。

実践内容

本科目は講義と演習で構成されており、授業内容の要点をまとめたレジュメは、重要なところを自分で記入できるようにしている。講義の説明動画で統計学の基本的な考え方を学習し、知識を得たうえで Excel の演習問題に取り組む形とした。

<基礎編（第10回目まで）：例題データの分析>

Excel の操作については学生間で習熟度が異なるため、Excel の演習にも一部、解説動画を用意した。また、授業を重ねるごとに自分の力でデータ分析ができるように、復習課題を用意するなど課題の提示方法を工夫した。

<実践編（第11回目以降）：実践的なデータ分析>

第11回目以降は、実際に行われたアンケート調査データ（タミー形式に変換したものを含む）の分析や西宮市のオープンデータの分析に取り組んだ。また、分析したデータを考察し、文章化する演習を行った。データ提供者からも分析結果に関するコメントをもらい、次回の授業で共有することで、実際の担当者はどのような点に注目したのかを確認した。単なるデータ分析にとどまらず、データ収集の目的や結果をどのように活かしているのかを理解することで、データサイエンス領域の基礎的な知見を学習した。

受講生への効果

Excel の操作が苦手な学生も基本的な統計解析の手法を身に付けることができた。授業前半の例題レベルのデータ分析から、授業後半では実際に社会で扱われているデータを分析することで、より意欲的に課題に取り組む姿勢が見受けられた。また、データ提供者から分析結果のコメントをもらい、その内容を共有することで、学生はデータ活用の実例を理解することができた。

優れた点（授業アンケートの学生コメント・授業参観者からのコメントより）

- ・実際のデータを用いることで授業へ取り組む意欲があがった。
- ・Excel の操作画面も動画にされていて、細かいところまで分かりやすかった。
- ・疑問点を次の授業で取り扱ってくれるのでわからないままになることがなかった。
- ・豊富でかつ多すぎない参考資料と、要点が丁寧に記載された内容が絞られたレジュメの作り方、学生にとって身近なデータを授業の材料として取り扱っている点が参考になった。



5. 基礎栄養学（短食1B） 食物栄養学科：前田 晃宏

科目の概要

栄養の概念について学び、摂食行動、栄養素の消化吸収と体内動態、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの栄養について、栄養素の代謝経路や生理機能、調節機能を通して栄養学の基礎を学習する。

実践内容

With コロナ・After コロナを見据え、本学の ICT システム (@mwu.jp) を活用した対面、遠隔ライブ、オンデマンド配信に対応した簡便且つ安価で実現可能な講義型授業。全ての授業形態を網羅することにより、学生個々の事情に応じた授業展開が可能。

○準備物：ノート PC (2in1タイプが理想)。ペンタブレット or 液晶タブレットでも可。

マイク付きイヤホン（推奨。ワイヤレスタイプが理想）（PC のマイクを使うとペンで書く音を拾ってしまうため）

○事前準備：Google カレンダーに受講学生を招待する。

授業の資料は Classroom にアップロード or Google カレンダーに添付。（対面にしか配布できず、差が生じるので印刷はしない）

○実施手順：下表の通り。

○出欠確認：対面は M.I.C.。遠隔ライブは出席レポート。オンデマンド配信は Google Forms 等。

○最低限の経費：ペンタブレットの購入費用（各教室に液晶タブレットがあれば教員が新規で購入するものはほぼないと思われる）



手順	PowerPoint を中心に 使用する場合	PDF、JPEG、Word、無地のホワイトボード、 動画を中心に使用する場合
①機器の接続	授業教室でプロジェクターとノート PC を接続。	
②ノート PC の 画面設定	拡張設定。 (PowerPoint のメインディスプレイはノート PC)	複写設定。
③ Google カレンダー より Meet にアクセス	プロジェクターの画面を共有し、授業内容を録画。 (カメラは必要に応じてオン) ⇒見える画面 ・対面：教室のプロジェクター画面 ・遠隔 Live：共有されたプロジェクター画面	全画面共有を共有し、授業内容を録画。 (カメラは必要に応じてオン) ⇒見える画面 ・対面：教室のプロジェクター画面 ・遠隔 Live：共有された PC 画面
④補足の書き込み	PowerPoint に直接書き込む。(このための2in1PC) ※無地に書き込む場合は、空白のページをスライドに 組み込んでおく。(その場ですぐに組み込むことも 可) ※何か実物を見せる場合にはノート PC のカメラを活 用。	PDF(Microsoft Edge の PDF 閲覧ソフト Adobe acrobat pro がおすすめ)、Microsoft フォト、 Word に直接書き込む。(このための2in1PC) ※無地に書き込む場合は、Google Meet のホワイト ボードを使用し、学生には閲覧許可を与えておく。 (書くたびに新しいページにするのがポイント) ※何か実物を見せる場合にはノート PC のカメラを活 用。
⑤録画をオフ (授業終了後)	教員の手元に出席レポート(遠隔 Live)と動画ファイルが自動でメールが届く。	
⑥授業動画の配信 (オンデマンド配信)	当日の授業動画は、学生も含めて Google カレンダー 自動で添付される。 ⇒これがオンデマンド配信資料となる。	当日の授業動画は、学生も含めて Google カレンダー 自動で Link が添付される。 ⇒これがオンデマンド配信資料となる。 Google Meet のホワイトボードを使用した場合に は学生自身の Google ドライブの共有ファイルから 当日のホワイトボードを閲覧できる。
⑦その他	液晶タブレット画面とノート PC 画面を複写、プロジェ クター画面を拡張にする。画面共有はプロジェクター 画面。	無地のホワイトボードの場合はすべての画面を複写。

受講生への効果

学生は好きな受講方法を選択できる。

優れた点（授業アンケートの学生コメント・授業参観者からのコメントより）

- ・わかりやすくプリントを作ってくれたり、復習プリントも作ってくれてありがたい。
- ・Classroom の「ストリーム」の効果的な使用、復習プリントの充実、小テストの範囲が明確。
- ・授業のやり方そのものが With コロナ・After コロナを見据えた授業運営の参考になる。

後期「授業改善奨励制度」について

後期授業改善奨励制度の申請期間は、令和4年1月17日（月）9時～2月1日（火）17時となっています。詳細については、FD 推進委員会ホームページまたは info@MUSES を参照の上、申請をお願いします。

FD 推進委員 田中 邦子

近年、デジタル・ネットワーク社会にふさわしい著作物利用ニーズへの適切な対応を目指して、「平成30年著作権法の一部を改正する法律」が公布されました。特にeラーニング普及の妨げとされた著作権法第35条の改正を含み、情報産業や教育との関連が注目されています。さらに、コロナ禍において、オンライン授業の実施が日常となった現在、教材データ作成の際の留意点、利用できない著作物の判断基準など、教育現場では、著作物についての基本的な問題が明らかに増加の傾向です。

そこで、8月20日（金）、内田弘二氏（一般社団法人日本著作権教育研究会 理事）をお招きし、「大学の授業運営における著作権の考え方について」と題してご講演いただきました。学内の参加率が83.6%と高く、テーマへの関心の高さを示すと思われます。さらに、講演会の実施方法を、対面形式に加えオンライン・オンデマンドを併用したことも参加者数の促進につながったと考えます。また、講演後のアンケート結果の中で、「講演会で得た知識やスキルは教育活動の改善に役立つと思うか」に対する肯定的回答は98.4%と高く、内容がタイムリーだったと受け止めています。さらに、具体例をあげての解説、個別のテーマ設定、質疑応答のための十分な時間の確保などの要望が寄せられ、同テーマでの第2弾開催を検討しています。

FD 推進副委員長 黒田 智子



その他

今後のFD企画一覧

情報交換会の企画 (カフェFD等) グループ	カフェFD開催にあたり、現在、テーマについて検討しています。遠隔だからこそ良かった点、難しかった点、ポストコロナに向けた今後の授業の方向性等々…。「授業改善奨励制度」により表彰された先生方の実践も参考にさせていただきながら、コロナ禍において試みた様々な取り組みから見出された新たな可能性を省みたいと思っています。カフェ形式でどなたにも気軽に参加していただき、有意義な情報交換会にできるよう、調整を進めています。 (グループ代表者 FD 推進副委員長 黒田 智子)
学生を含めた企画 (学生FD等) グループ	「学生を含めた企画（学生FD等）」では、学生が自身の学びの環境づくりに参画できる企画を検討しています。今年度は、若手職員から成るブランディング・プロジェクトのメンバーと連携して、有志学生と教職員との座談会を年度内に開催する方向で動いています。武庫女の学びのあり方について有意義なディスカッションをできればと思います。また、今後は幹事懇談会等、既存の学生組織を活用して、学生の参画を促すことも検討しています。 (グループ代表者 FD 推進委員長 久富 健治)
遠隔授業コンテンツ企画 (掲示板等) グループ	遠隔授業コンテンツ企画グループは、遠隔授業実施にあたっての課題解決や、ヒントについての情報交換・共有を図る方法について議論しています。現在は、Google Workspace の機能を活用した掲示板機能などについて、技術面も併せて検討している段階で、今年度中の試行を目指して準備しています。新任・非常勤の先生方も含め、教員がより便利で質の高い遠隔授業を提供するために、支援できる仕組みを構築できればと考えています。 (グループ代表者 FD 推進副委員長 平井 拓己)

FD推進委員一覧

役職	所属	氏名	役職	所属	氏名	役職	所属	氏名
1 委員長・委員	健康	久富 健治	8 委員	食物	小関 泰平	15 委員	教務部(英文)	郷路 行生
2 副委員長・委員	環境	黒田 智子	9 委員	建築	田崎 祐生	16 委員	教務課	藤田 圭子
3 副委員長・委員	情報	平井 拓己	10 委員	音楽	永島 茜	17 委員	国際課	藤田 翔子
4 委員	日文	管 宗次	11 委員	薬学	川崎 郁勇	18 委員	情報システム課	東條 弘
5 委員	英文	辻 和成	12 委員	看護	久山かおる	19 委員	教育開発・IR推進課	田中 邦子
6 委員	心福	佐方 哲彦	13 委員	経営	鈴木 基史	20 委員	教育開発・IR推進課	牛居 典子
7 委員	教育	本多 千明	14 委員	共通	寺井 朋子	21 委員	教育開発・IR推進課	岩本 直子